



小型電気温水器（先止め式） ESW03シリーズ（E）

工事要領・取扱説明書

安全上のご注意	1
設置上のご注意	4
ご確認ください	5
同梱物の確認	5
製品について	6
ラインナップ	6
外形寸法	6
標準配管図	7
仕様	8

設置・ご使用の前に

設置工事	9
設置場所の確認	9
設置場所の選定	9
正面カバーの取り外し	10
温水器本体の設置	10
配管接続	12
配管接続をする前に	12
湯水混合栓－温水器間	13
止水栓－温水器間	14
ブローキャッチャー（BCH）の取付	14
逃しホースの取付	14
電気工事	16
試運転	16
温水器に給水する	17
試運転を行う	18
正面カバーの取付	18

設

置

使いかた

ご確認ください	20
お湯を沸かす	20
出湯温度の変更	21
出湯する	21
出水する	21

お手入れ

お手入れの方法	22
保守点検項目と実施の目安	22
長期間使用しないときは	22
短期間使用しないときは	24
凍結防止対策	24
逃し弁の動作確認	25
ストレーナーの清掃	26
外装のお手入れ	28

こんなときは

こんなときは	29
故障かな？と思ったら	29
過昇温防止装置のリセット	31
アフターサービス	33

- ◆このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- ◆本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置・ご使用ください。
- ◆設置工事（試運転）後は、必ず本書をご使用になる方にお渡しください。
- ◆本書はお使いになる方がいつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、お守りいただく事項を記載しています。
ご使用の前に必ず本書をお読みになり、内容をよく理解された上で正しくお使いください。
※本書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、弊社は一切責任を負いません。

警告表示の意味



この表示の欄は、「死亡、または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は、「傷害を負う可能性、または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。



○の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。
○の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は『分解禁止』という意味です。)



●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は『アース工事を確実に行うこと』という指示です。)

重要事項：必ずお守りください



電気工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、電気工事が行い、必ず温水器のアース工事は、□種接地工事を行う
またアース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話などへの接続や共用アースを行わない
故障や漏電のときに感電の原因になります。



水道直結の配管工事は、当該水道局(水道事業管理者)の認定水道工事業者が指定された配管材料を使用して施工する
事故、故障の原因になります。

定格電圧で使用する。一時変動がある場合には±10%以内の環境で使用する
他機器と併用し、ブレーカー容量を超えたときに、発熱して火災の原因になります。

専用の漏電ブレーカーを設ける

他機器と併用し、ブレーカー容量を超えたときに、発熱して火災の原因になります。

設置は必ず当社指定部品を使用し、この説明書に従って確実に行う
火災、感電、漏水の原因になります。

温水器満水時質量に十分耐えられる壁面に設置する
温水器が落下し、けがの原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む
感電、ショート、発火の原因になります。

⚠ 警告

異常・故障時には、直ちに使用を中止する

発煙、発火、感電、やけどの原因になります。

電源プラグを外すときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って外す
感電、ショート、発火の原因となります。

お手入れのときは、必ず電源プラグをコンセントから外す

感電の原因となります。

1ヶ月に1回程度、電源プラグの刃などについたホコリを取り除く
火災の原因となります。

屋外や表面に結露が生じるような湿気の多い場所、水がかかる場所、特に浴室やシャワールームに設置されていないか確認する

感電、誤動作の原因となります。

給湯時は、必ず水側から出し、湯温を確かめてから使用する
やけどの原因となります。

絶対に改造はしない、専門の技術者以外、分解、修理しない

火災、感電、やけど、故障やケガの原因となります。

屋外に設置しないでください。

感電、故障の原因となります。

設置時、リセット操作時、メンテナンス作業時以外は正面ケースを取り外さない

感電、やけどのおそれがあります。

水、油、洗剤などがかかる位置に温水器用のコンセントを設けない

火災、感電の原因になります。

温水器をガス類や引火物の近くに設置しない、また、ガス類や引火物をおかない
発火の原因になります。

電源コードや電源プラグを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだり、加熱したりしない
火災、感電の原因になります。

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない
火災、感電の原因になります。

電源プラグは、濡れた手で抜き差ししない

感電の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない

火災の原因になります。

タンク内の湯温が高い状態で絶対に排水しない

配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。

逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管、逃しホースに手を触れない
やけどのおそれがあります。

給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、水栓金具に直接触れない
やけどのおそれがあります。

雷が発生しているときは、電源コードに触れない

感電の原因になります。



△注意

	<p>通電はタンクを満水にしてから行う 過熱し、故障の原因になります。</p> <p>凍結予防対策を行う 配管や機器の破損、やけど、漏水の原因になります。</p> <p>設置完了後、必ず通水し、温水器本体や各配管より漏水がないことを確認する 漏水が起きた場合、機器の故障や大きな被害につながります。</p> <p>必ず水道法の飲料水水質基準に適合した水道水を使用する 故障、漏水の原因になります。</p> <p>給水配管を接続する前に、配管内のゴミが排出されなくなるまで止水栓を開けて水を捨てる 健康を害するおそれがあります。</p> <p>膨張水は必ず排水処理する 漏水が起き、機器の故障や大きな被害につながります。</p> <p>温水器を必ず付属の壁固定金具及び、ねじを使用して固定する 温水器が落下し、けがの原因になります。</p> <p>ブローキャッチャー(BCH)および排水配管に閉塞や異常がないことを確認する 故障や漏水の原因となります。</p> <p>給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用する 漏水の原因となります。</p> <p>配管に使用するパッキンはノンアスペストパッキンを使用する 漏水の原因となります。</p> <p>機器本体へ配管接続する前に配管内のゴミ(切削粉、砂、シールテープ等)を除去するため、止水栓を開きフラッシングする 故障や漏水の原因となります。</p> <p>飲用する場合は、やかんなどで沸かしてから飲む 健康を害するおそれがあります。</p> <p>日常的に漏水が無いか点検する 漏水が起きた場合、階下などに被害を及ぼすおそれがあり、大きな被害につながることがあります。</p> <p>定期的に逃し弁の動作確認を行う 万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。</p> <p>逃し弁のレバーを操作するときは、レバーをしっかりとつまみながら操作する ケガのおそれがあります。</p> <p>床面に防水、排水処理を施す 漏水が起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。</p> <p>規定の給水圧力(静止圧)で使用する 誤動作、故障の原因となります。</p> <p>長期間使用しない場合はタンクの水を抜く 水質が悪化するおそれがあります。</p> <p>落雷の可能性がある場合は、あらかじめ電源プラグをコンセントから外しておく 故障の原因となります。</p> <p>出湯(水)量が少なくなったら止水栓やストレーナーの点検・清掃を行う 故障や漏水の原因となります。</p>
--	--

△注意

	<p>ストレーナーの清掃をする際は、止水栓を閉めてから行う 漏水が起き、階下などに被害をおぼすおそれがあり、大きな被害につながることがあります。</p> <p>冬場に漏電ブレーカー、運転スイッチを「OFF(切)」にするときは、水抜きを確実にする 凍結のおそれがある所では、故障や漏水の原因となります。</p>
	<p>自動水栓の吐水口に浄水器など抵抗となるものを取り付けない 漏水、故障の原因となります。</p> <p>長期間の使用によりタンク内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがあるため、固体物や変色、にごり、異臭があった場合は使用しない 健康を害するおそれがあります。</p> <p>機器に乗ったり、濡れたものや洗剤などを乗せたり、配管に力を加えたりしない 故障、漏水の原因になります。</p>

設置上のご注意

- 給水・給湯・排水配管の立ち上げ及び接続等の配管工事は、水道局指定工事店に依頼し、関連する法令・規定に従って、必ず「有資格者」が行ってください。
- 設置作業中は手袋を着用してください。金属端面によるけがを防ぎます。
- この製品はAC100Vまたは200Vで動作する機器です。
- 太陽熱温水器(ソーラー温水器)や他温水器との接続はできません。
- 水は水道法の飲料水水質基準に適合した水道水を使用してください。水道水であっても塩分、石灰分、その他不純物が多く含まれている水質や酸性水質での使用は避けてください。井戸水、地下水、温泉水はスケールが付着しやすくなり、また温水器をご使用いただく期間の水質が常に水道法の定める水質基準内である担保が取れないので、使用しないでください。
- 給水圧力は0.1～0.75MPaでご使用ください。0.75MPa(静止時)以上の場合は、給水一次側に減圧弁を設けてください。
- 必ず給水一次側に止水栓を使用してください。
- 必ず膨張水排水用のブローキャッチャー(BCH)(関連商品)を取り付けてください。
詳しい取付方法は、ブローキャッチャー(BCH)に付属の説明書をご確認ください。
- 製品の上に乗らないでください。製品が変形します。

ご確認ください

同梱物の確認

以下のものが付属されています。開梱時に確認してください。

部品名	数量	備考
工事要領・取扱説明書	1	
デジタルタイマー取扱説明書	1	TTXタイプのみ
壁固定金具	2	温水器取付用部材
トラスタッピングねじ1種	1	呼び5×12 温水器取付用部材
木ねじ	2	呼び5.1×20 温水器取付用部材



工事要領・取扱説明書
デジタルタイマー取扱説明書



木ねじ(呼び5.1×20)



トラスタッピングねじ1種
(呼び5×12)



壁固定金具

【お客様にてご手配ください】

お客様手配品 (→ P.7『標準配管図』参照)

- ①漏電ブレーカー …… 万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA、0.1秒)
- ②ステンレスフレキ管 …… 配管するために必要です。
- ③止水栓 …… 排水やメンテナンス時に給水を止めるため必要です。
- ④水栓 …… 出湯するため必要です。
- ⑤パッキン・シールテープ …… 配管接続部分から漏水させないために必要です。パッキンは必ずノンアスベストパッキンをご使用ください。ゴム製のパッキンを使用すると、漏水のおそれがあります。

関連商品 (→ P.7『標準配管図』参照)

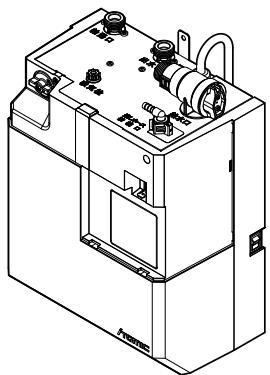
- ブローキャッチャー(BCH) …… 簡単な工事で設置可能な膨張水排出装置です。

製品について

ラインナップ

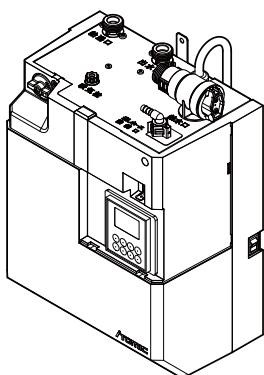
ESW03ATX(E)

シンプルな標準タイプ。

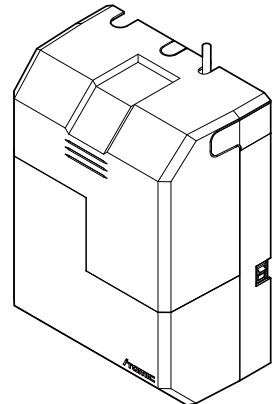


ESW03TTX(E)

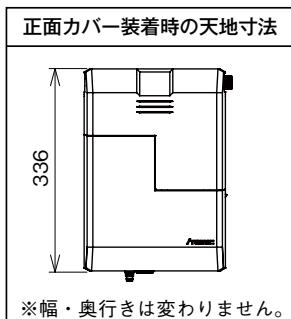
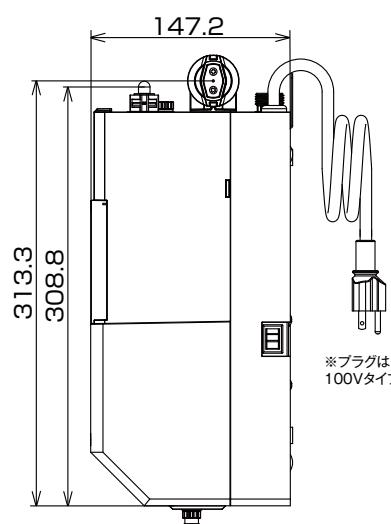
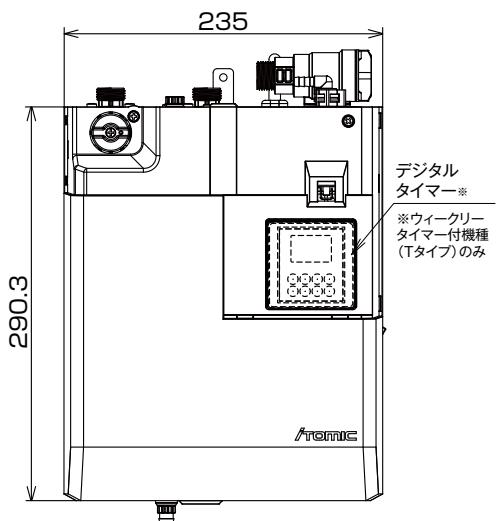
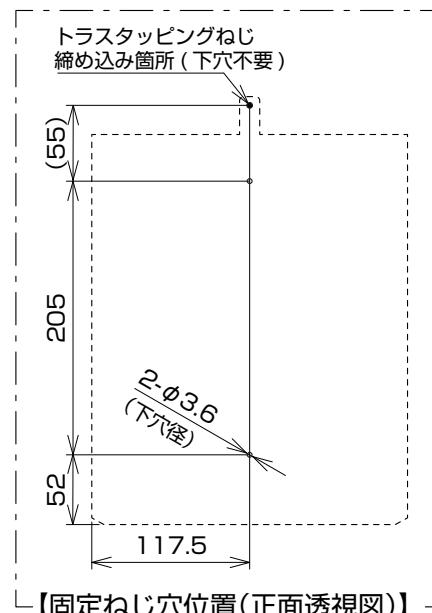
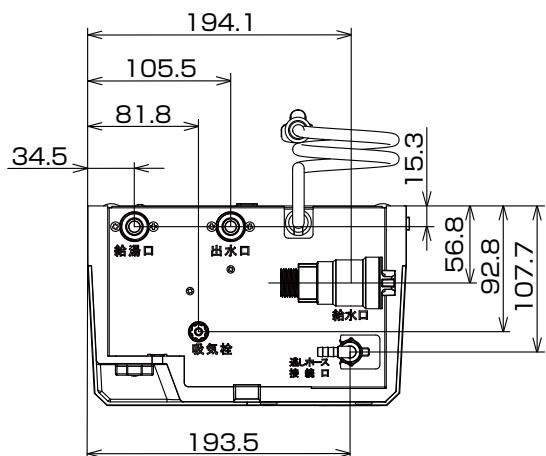
便利なデジタルタイマーが付いたタイプ。



正面カバー装着時



外形寸法

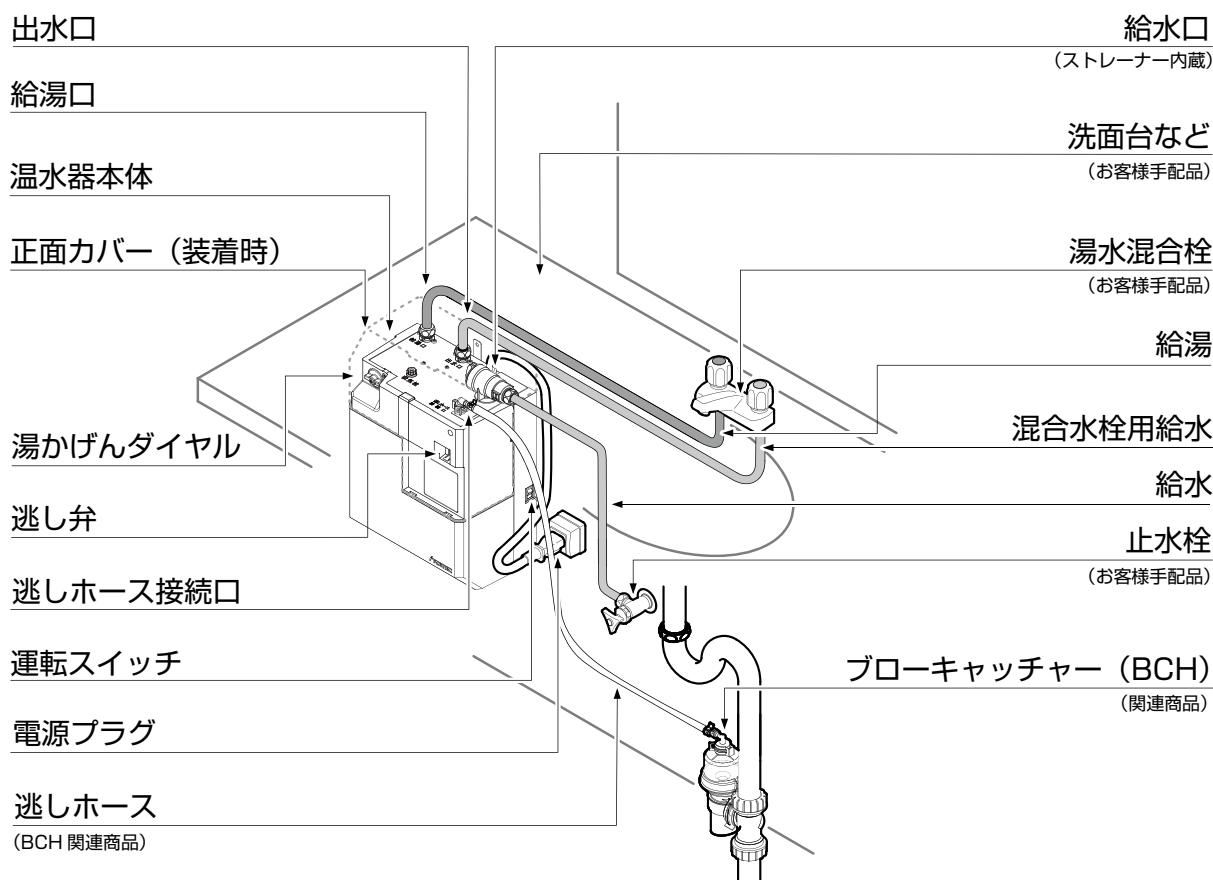


標準配管図

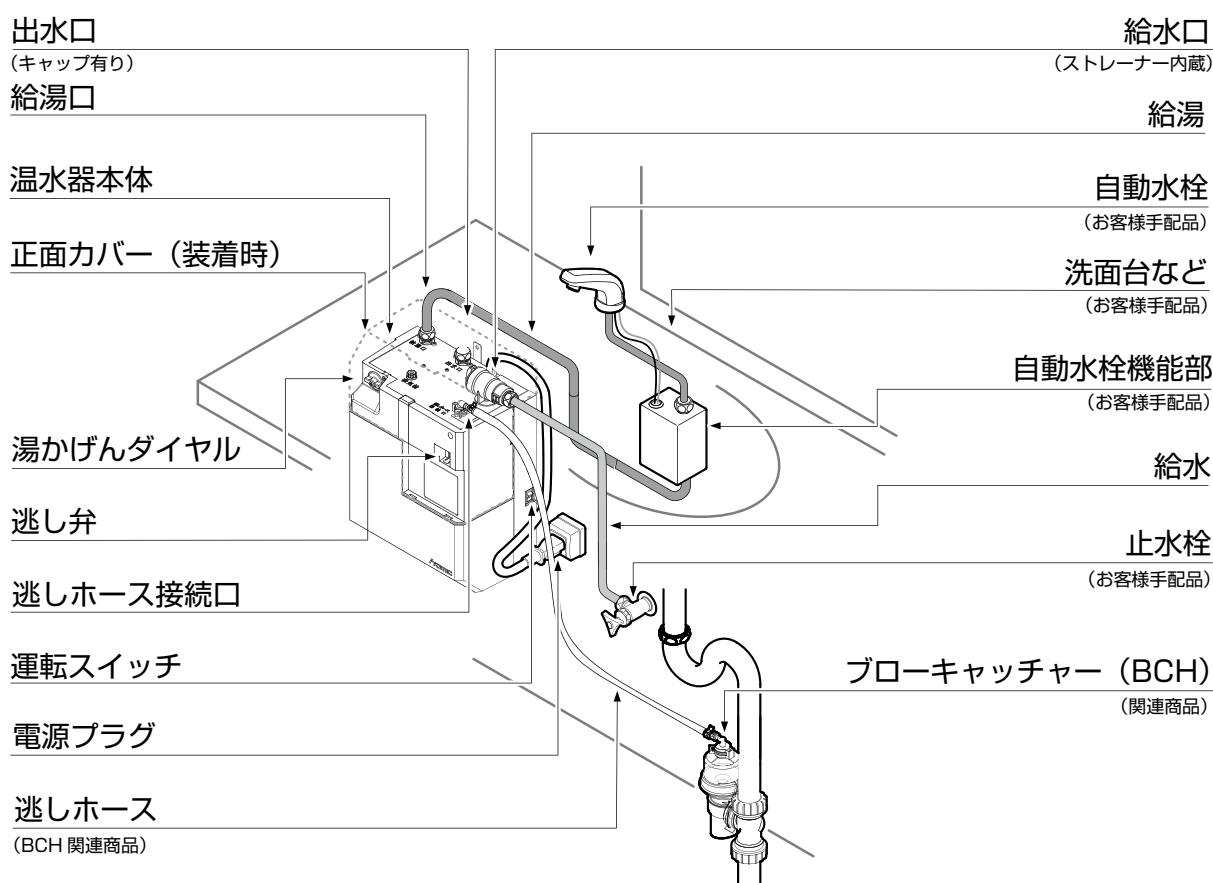
★製品・部品によって形状は異なります。

下図の温水器の設置環境は一例のため、実際とは異なる場合があります。

混合水栓の場合



自動水栓(単水栓)の場合



仕様

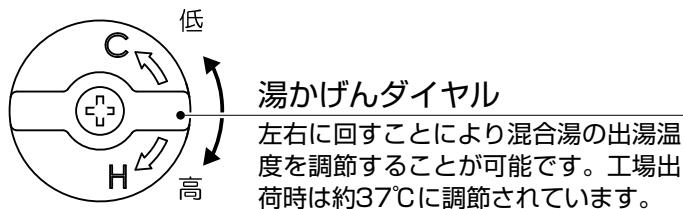
型式		ESW03(E)	
型番		ESW03ATX(E)(タイマー無)	ESW03TTX(E)(タイマー有)
貯湯量		約 3L	
定格	電圧	単相 100/200V	
	周波数	50/60Hz	
	消費電力	0.6kW	
設定温度(沸かし上げ温度)		約 75 °C	
出湯温度(調節目安範囲)		工場出荷時 37 °C (温度調節可能範囲訳 34 ~ 43 °C) ^{*1 *2}	
外形寸法 D × W × H		235 × 147.2 × 290.3(336)mm ^{*3}	
満水質量		約 6.0kg	約 6.3kg
使用条件	設置環境温度	0 ~ 40 °C (凍結しないこと)	
	一次側使用水温	30 °C 以下(凍結しないこと)	
	使用水圧(静止時)	0.1 ~ 0.75MPa	
	最高使用圧力	0.1 MPa	
	設置場所	屋内	
主要部品	ヒーター	シーズヒーター	
	逃し弁	95kPa	
	減圧弁	80kPa	
	電源コード	0.8m	
	電源プラグ	単相 100V 差込型 / 接地 2P 125V/15A	
		単相 200V 引掛形 / 接地 2P 250V/20A	
対応コンセント (パナソニック品番)		単相 100V WK3001W WF3002EK	
		単相 200V WF2520B/W WK2520B/W	
安全装置		空焚き検出、過昇温検出	
接続口径	給水口	G1/2(おねじ)	
	給湯口	G1/2(おねじ)	
	出水口	G1/2(おねじ)	
	逃しホース接続口	タケノコ形状	
	水抜栓	適合ホース内径 10mm	

※1: お湯の出はじめに瞬間に温度が高くなる場合があります。(約 43 °C)

※2: 沸かし上げ温度: 75 °C、給水温度: 15 °C 時、出湯流量: 3L/min 時

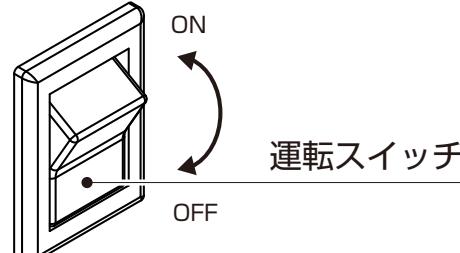
※3: ()内寸法は正面カバー取付時の製品高さです。(P.6『外形寸法』参照)

操作部



出湯温度調節範囲

給水温度の目安	温度調節可能範囲目安
約 5 °C	約 33 ~ 42 °C
約 15 °C	約 34 ~ 43 °C
約 25 °C	約 35 ~ 41 °C



※沸かし上げ温度: 75 °C 時(沸かし上げ直後)、出湯流量: 3L/min の場合。
※出湯温度の調節範囲は給水温度により変動します。

沸かし上げ時間の目安

貯湯量	定格電圧	型番	沸かし上げ時間 ^{*1}			使用範囲の目安(人) ^{*2}	
			給水温度(タンク内満水温度)				
			5 °C	15 °C	25 °C		
約 3L	100V	ESW03ATX(E)	22分	19分	16分	約 14	
	200V	ESW03TTX(E)					

※1: 沸かし上げ温度 75 °C の場合。※2: 手洗い用として、1人当たり0.5リットル、37 °C の使用を想定して算出。(給水 15 °C、沸かし上げ温度 75 °C)

設置工事

設置場所の確認

チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
設置環境	凍結しない場所ですか? 凍結の可能性がある場所では、各配管に対しヒーターや保温材を巻くなどの凍結予防処置を施してください。	<input type="checkbox"/>
メンテナンススペース	メンテナンスのために本体を取り外せるスペースは確保されていますか? メンテナンススペースが取られていないと、修理や点検の際に製品を取り外すことができません。	<input type="checkbox"/>
取付壁面	垂直な壁面ですか? 垂直でない場合はお取り付けいただけません。	<input type="checkbox"/>
配管距離	満水質量に耐えられる壁面ですか? 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	<input type="checkbox"/>
給水圧力	水栓までの距離が2m以内に収まる場所ですか? 放熱口を防ぐため、給湯配管は最長でも2m以内におさえてください。	<input type="checkbox"/>
電圧	給水圧力は0.1 ~ 0.75MPaの範囲内ですか? 温水器が正しく動作しませんので、必ず上記の範囲の給水圧力があることを確認してください。	<input type="checkbox"/>
	定格電圧の±10%以内ですか? 電圧が範囲内に収まらないと、性能を十分に発揮できない場合や、故障・火災の原因になりますので、一時変動がある場合にも定格電圧の±10%以内の電圧であることを確認してください。	<input type="checkbox"/>

設置場所の選定

- 設置場所はお客様と相談し、各都市の火災予防条例に従って、決めてください。
- 本体が故障したときの修理や交換ができるように考慮してください。
- 天井裏など日常点検ができない場所には設置しないでください。
- 温水器満水時質量(約6kg)に耐えられる十分な強度を持った垂直な壁面に設置してください。
- 建築物の可燃物からの離隔距離は0cm以上です。
ただし、保守点検できるスペースを確保してください。
- 火気、引火物の近くに設置しないでください。
- 屋外や表面に結露が生じるような湿気の多い場所、水がかかる場所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。
- 気温が0°C以下になる場所には設置しないでください。
- 電源コードの長さや曲げ半径には限りがありますので、電源コード(約0.8m)が曲げ半径32mm以上でコンセントに届く場所をお選びください。

消防法 基準適合 組込形

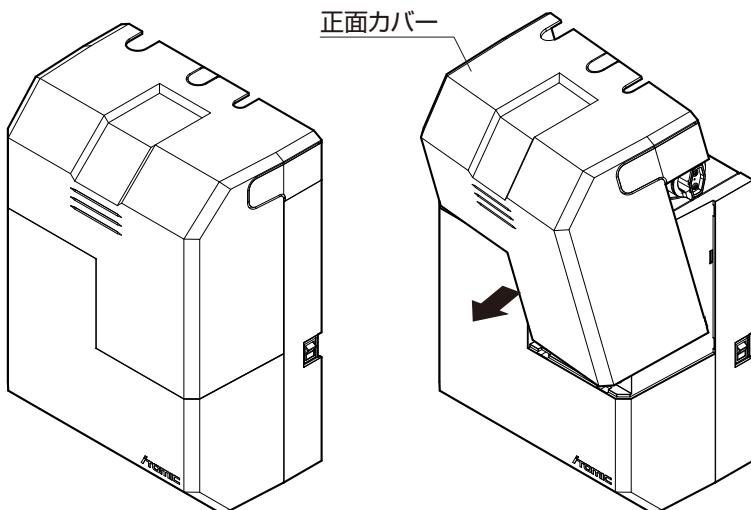
この温水器は消防庁告示第一号(対象火気設備等及び火気器具等の離隔距離に関する基準)に適合しています。

場所	上方	左方	右方	前方	後方	下方
離隔距離(cm)	0	0	0	0	0	0

正面カバーの取り外し

工場出荷時は正面カバーが取り付けられています。設置や配管接続を行う際には正面カバーを取り外す必要があります。

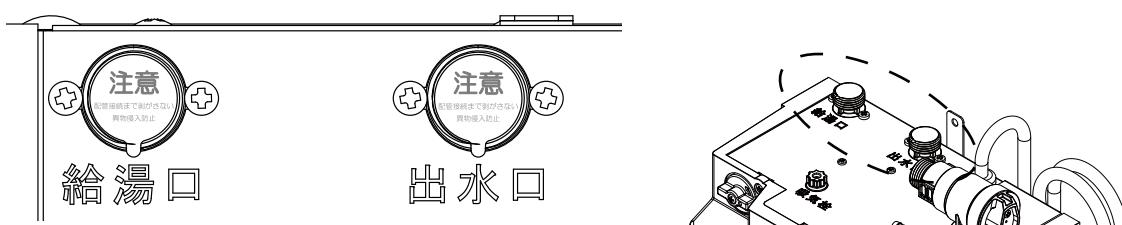
正面カバー右側面に指を引っ掛け、左斜め下方向に引っ張ると外れます。



温水器本体の設置



保護シールは配管接続直前まで剥がさない
異物が侵入し、機器の故障の原因になります。



壁固定金具の取り付け

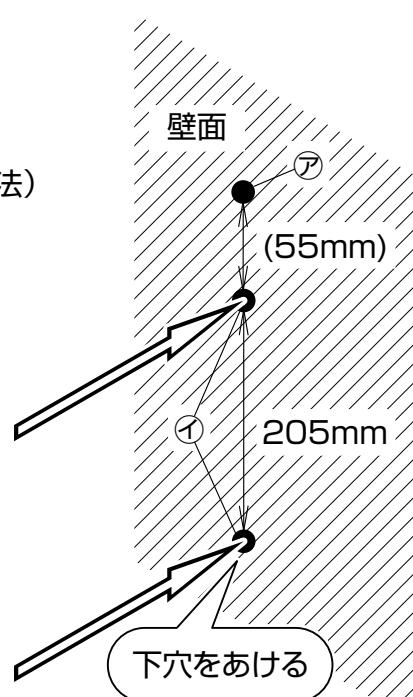
①機器を設置する壁面に下穴用の印をつけ、下穴を開けます。

【右図⑦部】

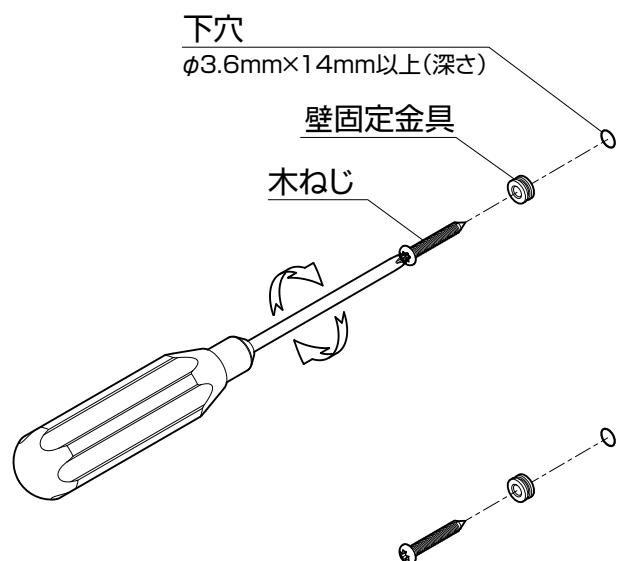
- ・トラスタッピングねじ1種 締め込み箇所(下穴不要、参考寸法)

【右図⑧部】

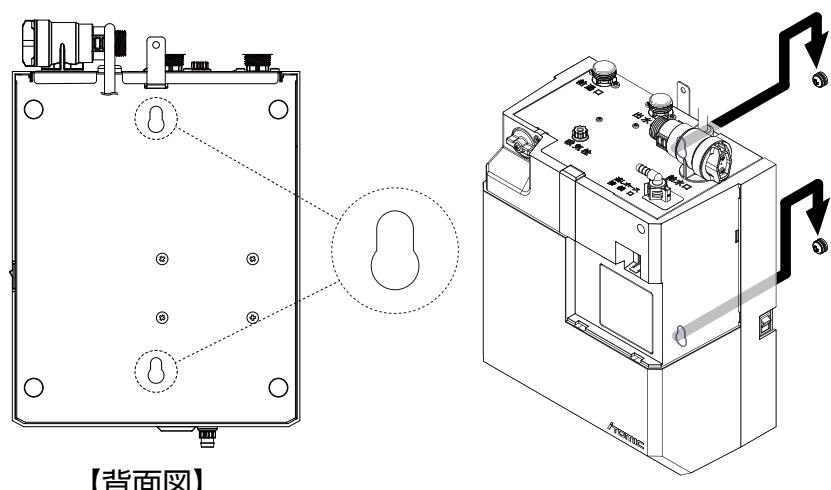
- ・木ねじ締め込み箇所(壁固定金具取付箇所)
呼び5.1用: $\phi 3.6\text{mm} \times 14\text{mm}$ 以上(深さ)



- ②手順①で開けた下側2箇所(①部)の下穴に付属の木ねじ(呼び5.1×20)で壁固定金具を固定します。



- ③温水器本体のダルマ穴を壁固定金具の溝に引っ掛けます。(2箇所)

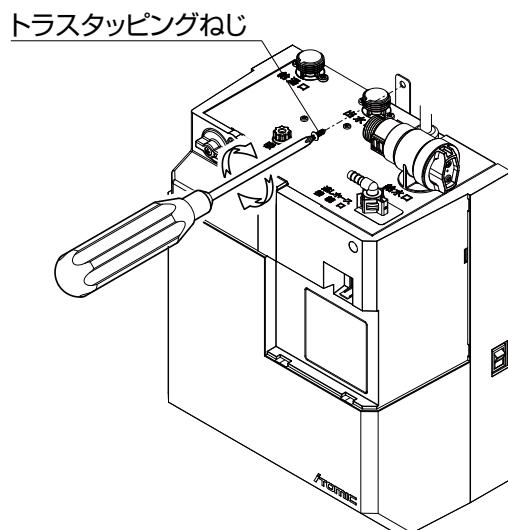


【背面図】



注意
上下2箇所しっかりとまっていることを左右に揺らすなどして確認すること
しっかりとまっていないと温水器が落下する可能性があります。

- ④温水器本体が垂直になるように左右を微調整し、温水器本体の上部を付属のねじ(5×12 トラスタッピングねじ1種)で固定します。



注意
ねじや工具で出水口の接続口を傷つけないこと

配管接続

配管接続をする前に

- ①給水一次側にお客様手配品の止水栓を取り付けてください。
- ②出水口と給湯口に貼られている保護シールを剥がして配管を行ってください。

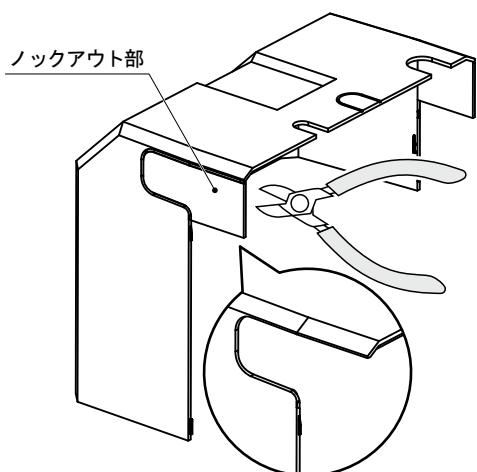


- 湯切れや偏流を避けるため、給湯口数（給湯栓数）は温水器の給湯能力に見合った個数にしてください。
- 膨張水の処理は当社のブローキャッチャー（BCH）もしくは間接排水にて行ってください。BCH使用時は漏水防止のため、必ず閉塞や異常がないことを確認してください。
- 放熱ロスを防ぐため、給湯配管は最長でも2m以内におさえ、保温工事を行ってください。
- 袋ナットやユニオンを使用して、メンテナンスや修理の際に取り外せるようにしてください。また、配管接続部は漏水防止のためパッキンまたはシールテープを使用してください。
- 負圧となるため給湯加圧ポンプの使用や、温水器より低い場所（階下など）への給湯はしないでください。
- 本体設置場所周辺の温度が氷点下になる、もしくは予想される場所では、各配管に対しヒーターや保温材を巻くなどの凍結予防措置を施してください。

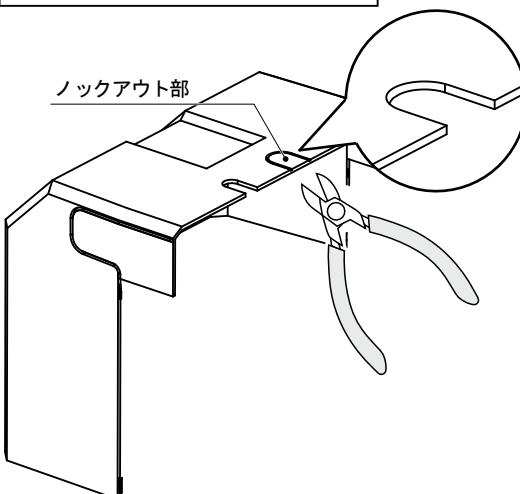
配管方法に合わせて正面カバーを加工

- ①配管接続の向きに合わせ、ノックアウト部をニッパーなどで切り取ります。
・バリはカッターナイフや紙やすりで除去してください。

右出し配管の場合

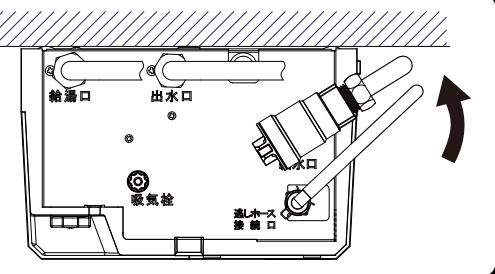


出水口を利用する場合



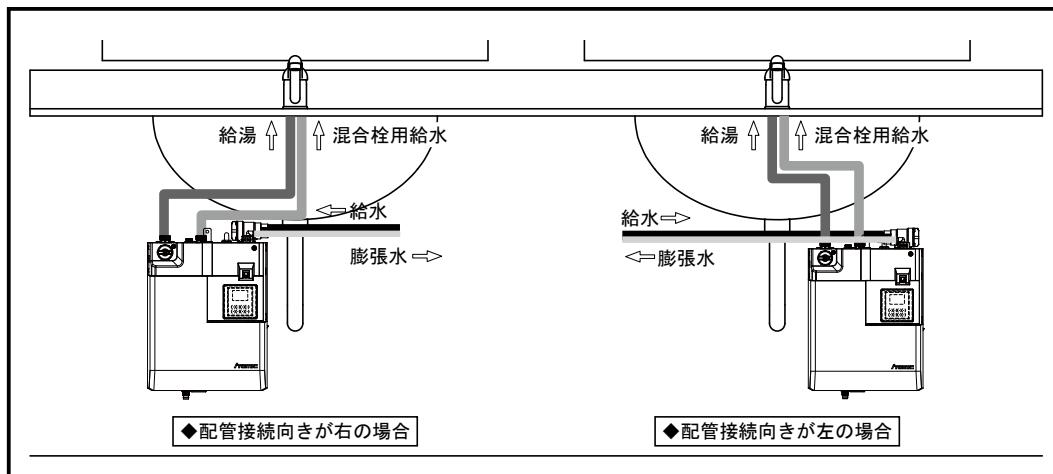


配管は右図のようになるべく製品取付壁面に寄せるように施工してください。
配管を製品前側に施工すると正面カバーの脱着時に干渉する場合がございます。



配管接続向きについて

ESW03(E)の配管接続口(給水口・逃しホース接続口*)は左右に回転可能です。
設置状況に応じて配管接続向きを変更してください。



- 水は水道法の飲料水水質基準に適合した水道水を使用してください。水道水であっても塩分、石灰分、その他不純物が多く含まれている水質や酸性水質での使用は避けてください。井戸水、地下水、温泉水はスケールが付着しやすくなり、また温水器をご使用いただく期間の水質が常に水道法の定める水質基準内である担保が取れないため、使用しないでください。(水質に起因した不具合が発生した場合、無償保証できません。)
- 給水圧力は0.1～0.75MPaをご使用ください。
0.75MPa(静止時)以上の場合は、給水1次側に減圧弁を設けてください。
- 温水器と湯水混合栓、止水栓を接続する配管は、ステンレスフレキシブル管を使用してください。
- 温水器と湯水混合栓の配管長は最短になるようにしてください。
配管長が長くなると、湯や水の出が悪くなったり、湯が出るまでの待ち時間が長くなったりします。
- 冬期などの水抜きの際に、配管の引き回し上、配管内の水が抜けない場合、配管内の水が抜けるように水抜栓などを設けてください。
- 建築躯体側配管の接着剤が乾燥していない状態で温水器を接続しないでください。
(接着剤が乾いていない状態で湯水を通すと湯が臭ったり、故障の原因となることがあります。必ず接着剤が乾いていることを確認してから配管してください。)
- 配管接合部のシール材やパッキンは使用配管材と同様、耐熱、耐食性のある材料のものを使用してください。
- P.7「標準配管図」を参照して配管してください。

湯水混合栓－温水器間

- 湯水混合栓の種類によって給湯配管、出水(同圧給水)配管の接続方法が異なりますので、湯水混合栓の説明書に従って、接続してください。
- 湯水混合栓に引き出しホースがある場合、引き出しホースが止水栓等に引っかからないように調整してください。
- 正面カバー上面にある配管避け及びノックアウトを考慮して配管してください。



配管接続時は、接続部にパッキンがあることを確認した後、ねじ部を破損させないようにナットが回らなくなるまで手締めし、15～20N・mのトルクで締め付ける

給湯配管と出水(同圧給水)配管が逆に接続していないことを確認する

配管の接続部にパッキンがあることを確認する

止水栓－温水器間

- 止水栓を必ず使用し、お客様が操作しやすい場所に取り付けてください。
- 正面カバー左右側面にあるノックアウトを考慮して配管してください。



配管接続時は、接続部にパッキンがあることを確認した後、ねじ部を破損させないようにナットが回らなくなるまで手締めし、15～20N・mのトルクで締め付ける

配管接続時は、無理な力が他に加わらないようにダブルスパンナ掛けで作業する

配管内のゴミなどを取り除くため、給水配管を接続する前に必ず止水栓を開け、バケツなどに十分に通水(20L程度)してから接続する

ブローキャッチャー(BCH)の取付

- 配管接続にあたり、ブローキャッチャー(BCH)(関連商品)を同梱の説明書に従い、排水配管に取り付けてください。
- ブローキャッチャー(BCH)は必ず電気温水器1台につき、1個取り付けてください。
- 必ずブローキャッチャー(BCH)と逃しホースセット(関連商品)を使用してください。
- ブローキャッチャー(BCH)取り付け後、ブローキャッチャー(BCH)が他の配管に干渉しているか、傾いていないか確認してください。



ブローキャッチャー(BCH)およびトラップの袋ナットを増し締めする、緩めていなくても必ず増し締めする

袋ナットは、パイプレンチ等の工具を使用せずに手で強く締め付ける

逃しホースの取付

- 必ず関連商品の逃しホースセットを使用してください。
- 逃しホースは、現地の配管状況に合わせ、適切な長さに切断してください。
- 逃しホース取り付け後、下記のことを必ず守ってください。
 - ・ブローキャッチャー(BCH)が他の配管に干渉していたり、傾いていないか確認してください。
 - ・ブローキャッチャー(BCH)及びトラップすべての袋ナットを手で強く増し締めしてください。

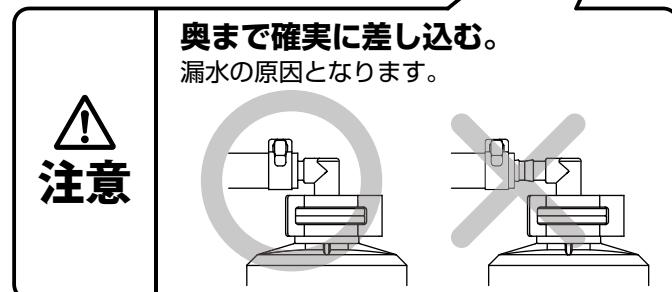
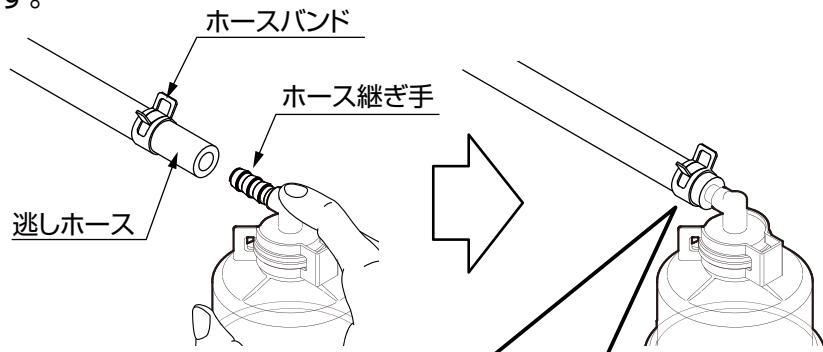


逃しホースを温水器やブローキャッチャー(BCH)の逃しホース接続口に差し込むときは、逃しホースをペンチなどで挟まないでください
逃しホースに傷がつくと水漏れの原因になります。

逃しホースは、折れ、つぶれ、たるみの無いようにし、接続部を付属のホースバンドでしっかりと接続する

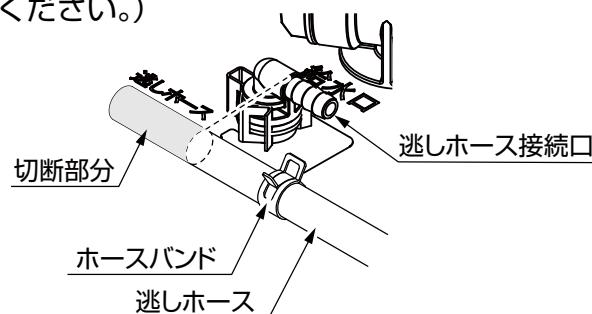
①逃しホースにホースバンドを取り付けます。

②ブローキャッチャー(BCH)を手で押さえながらホース継ぎ手に逃しホースを差し込み、ホースバンドでしっかりと固定します。



③逃しホースがたるまないよう長さを調節し、切断してください。

(ホースをつぶさないように切断してください。)

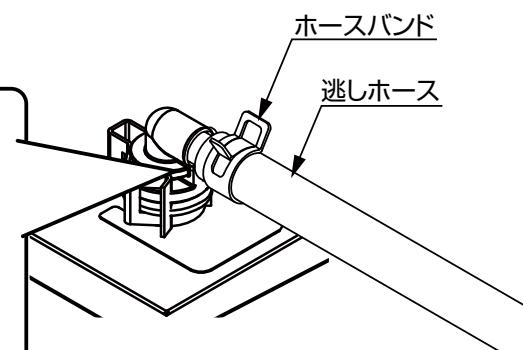


はさみやチューブカッターなどを用いて、切断面が垂直になるように切断する
漏水の原因となります。
逃しホースが長すぎると、折れ曲がり排水ができなくなります
漏水の原因となります。

④逃しホース接続口に逃しホースを奥まで確実に差し込み、ホースバンドでしっかりと固定します。



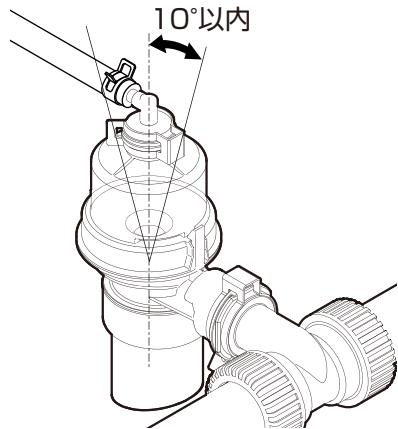
奥まで確実に差し込む
漏水の原因となります。



**!
注意**

ブローキャッチャー(BCH)の傾きが、鉛直に対して全方向 10°を超えないように取り付ける

動作不良の原因となります。



電気工事

- 電源一次側に漏電ブレーカーを取り付け、D種接地工事を行ってください。
- 接地極付電源プラグを使用しているため、必ず接地極付コンセントを使用してください。

**!
警告**

電気工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、電気工事士が行い、必ず温水器のアース工事は、D種接地工事を行う
またアース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話などへの接続や共用アースを行わない
故障や漏電のときに感電の原因になります。

**!
注意**

タンクを満水にしてから電源を入れる
故障の原因となります。

施工後の確認

チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
設置工事	温水器にがたつきはありませんか？	<input type="checkbox"/>
配管工事	給水管や給湯管の接続部分にゆるみはありませんか？	<input type="checkbox"/>
	BCH(使用時のみ)や排水管に閉塞や異常はありませんか？	<input type="checkbox"/>
電気工事	漏電ブレーカーは正しく作動しますか？	<input type="checkbox"/>
	D種接地工事は正しく行われていますか？	<input type="checkbox"/>

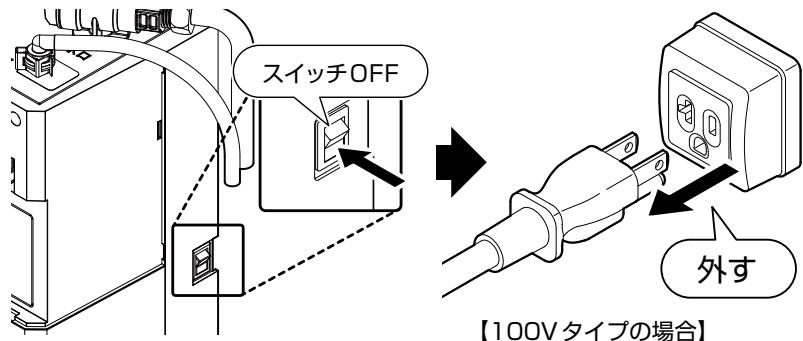
試運転



温水器に給水する前は、絶対に通電しない
電源プラグをコンセントに差し込まない

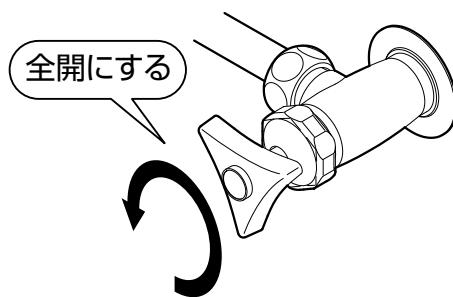
温水器に給水する

- ①運転スイッチがOFFになって
いることを確認してください。



- ②電源プラグがコンセントから
外れていることを確認してく
ださい。外れていない場合は
外してください。

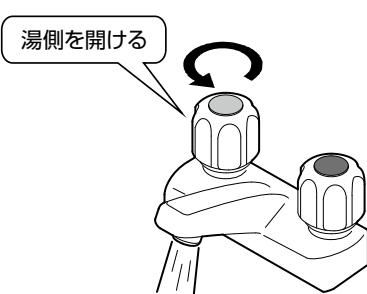
- ③止水栓を全開にしてください。



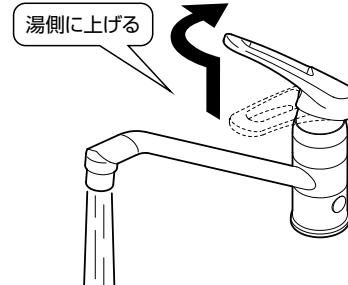
- ④湯水混合栓の湯側を全開にして、温水器のタンクが満水になるまで(水の量が安定するまで)流
し続けてください。

※温水器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。

湯水混合栓



シングルレバー湯水混合栓



自動水栓



【自動水栓の場合】

自動水栓をご使用の場合は、水の量が安定しているか
を確認してください。

(温水器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水
が出ます。)

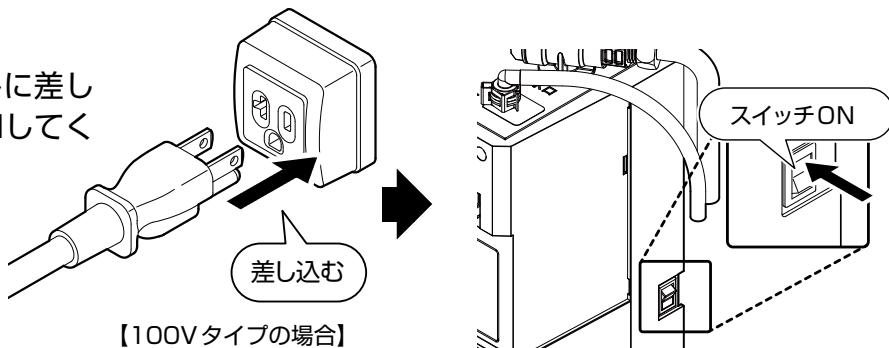
水の量を確認する



- ⑤水の量が安定したら湯水混合栓を閉め、温水器本体及び配管、ブローキャッチャー(BCH)、排
水トラップなど各種接続部からの漏水がないか確認する。

試運転を行う

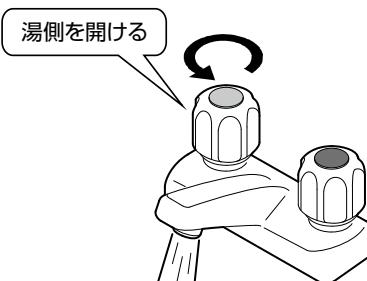
- ①電源プラグをコンセントに差し込み、運転スイッチをONしてください。



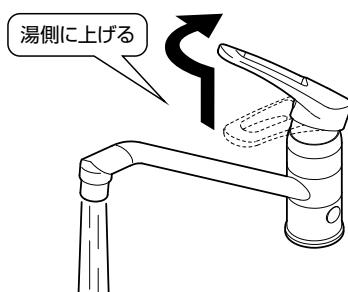
- ②しばらくした後に水栓からお湯が出ることを確認してください。

※運転スイッチをONにしてから沸かし上がるまでは多少時間がかかります。(P.8『沸かし上げ時間の目安』参照)

湯水混合栓



シングルレバー湯水混合栓

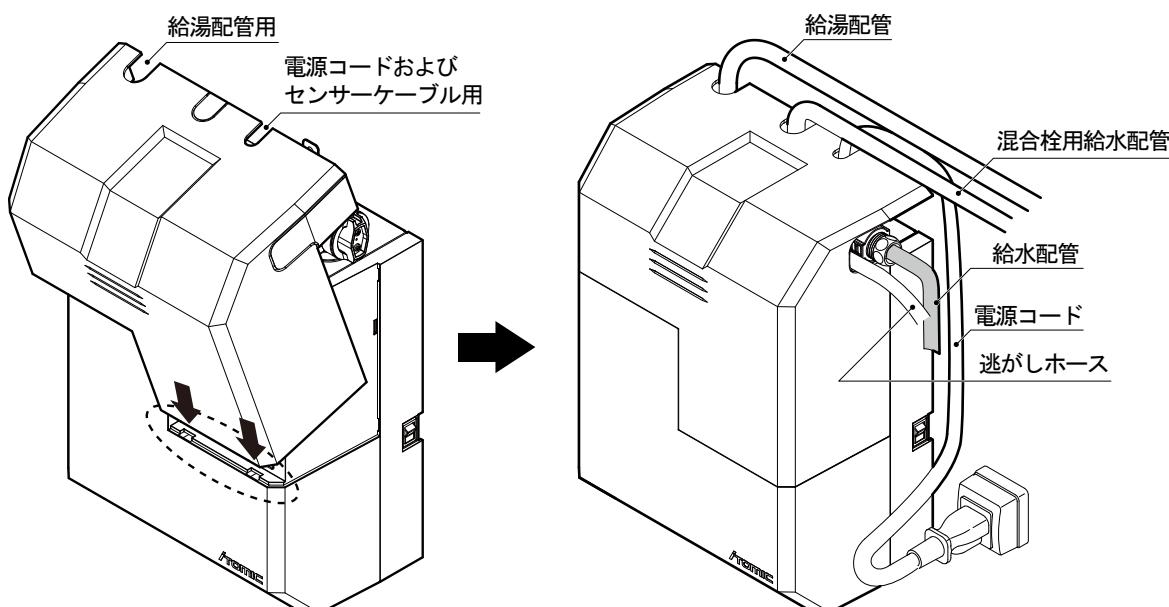


自動水栓



正面カバーの取付

- ①正面にあるツメをケース側受け部に差し込み、各配管、電源コードをノックアウト部などの穴に納めながら両側面を「パチッ」と音がするまで押し込みます。



試運転後のお願い

- 温水器給水口のストレーナーを掃除してください。作業時は必ず止水栓を閉じて行い、作業終了後に再び開けてください。
※ストレーナーの清掃方法はP.26を参照してください。
- 過昇温防止装置のリセットは、P.31を参照してください。
- 正面カバーが取り付いているかご確認ください(取り付け方法はP.18「正面カバーの取り付け」をご参考ください。)

施工後の確認

設置が完了しましたらお客様に温水器を引き渡す前に、設置の確認とP.17「試運転」を行ってください。

試運転は、必ずお客様に立ち会っていただき、運転操作はもとより操作上の注意、凍結予防方法などをよく説明し、理解を深めていただくようにしてください。

項目	チェック内容	チェック
設置	保守点検、交換のできるスペースがありますか。	<input type="checkbox"/>
	火気、引火物から離れていますか。	<input type="checkbox"/>
	設置する壁面の強度は満水時質量に十分耐えますか。	<input type="checkbox"/>
	壁固定金具(2ヶ)は付属のビスで壁面にしっかりと固定されていますか。 温水器上部は付属のビスでしっかりと固定されていますか。	<input type="checkbox"/>
	気温が0°C以下になる場所に設置されていませんか。	<input type="checkbox"/>
	温水器が傾いたり、壁面から浮いたりしていませんか。	<input type="checkbox"/>
配管	温水器専用の止水栓はありますか。	<input type="checkbox"/>
	温水器からブローキャッチャー(BCH)へ排水処理されていますか。 ホースがつぶれていませんか。付属のホースバンドで取り付けていますか。	<input type="checkbox"/>
	ブローキャッチャー(BCH)はきちんと垂直に取り付けられていますか。(傾いていませんか。)	<input type="checkbox"/>
	配管接合部のシール材やパッキンは使用配管材と同様、耐熱、耐食性のある材料のものを使用していますか。	<input type="checkbox"/>
	凍結のおそれのある配管すべてに凍結予防は行っていますか。	<input type="checkbox"/>
	給水口のストレーナーの掃除は行いましたか。	<input type="checkbox"/>
電気工事	電源は定格電圧±10%ですか。	<input type="checkbox"/>
	分電盤等に漏電ブレーカーは取り付けてありますか。	<input type="checkbox"/>
	接地極付コンセントを使用していますか。	<input type="checkbox"/>
	接地極付コンセント(接地極)からのアース工事は行っていますか。	<input type="checkbox"/>
	コンセントの定格容量(定格電流)は適切ですか。	<input type="checkbox"/>
	電源プラグがコンセントに根元までしっかりとささっていますか。	<input type="checkbox"/>
その他	配管各部からの漏水はないですか。	<input type="checkbox"/>
	湯水混合栓から出湯したときブローキャッチャー(BCH)や排水トラップからの漏水はないですか。	<input type="checkbox"/>
設置工事店名	電話番号	担当者名

ご確認ください

使用前の準備と確認

ご使用の前に以下のことを確認してください。

チェック内容	チェック
近くにガス類や引火物を保管していない。	<input type="checkbox"/>
本体や配管の上に物を乗せていない。	<input type="checkbox"/>
温水器に給水されている。(温水器が満水になっている。) ※湯水混合栓の湯側を開き、安定した水が出ることを確認する。	<input type="checkbox"/>
空気を含んだ水が出る場合にはP.17「温水器に給水する」に従い、機器に給水する。	<input type="checkbox"/>
逃し弁からブローキャッチャー(BCH)へ常時水が出ていない。	<input type="checkbox"/>

お湯を沸かす

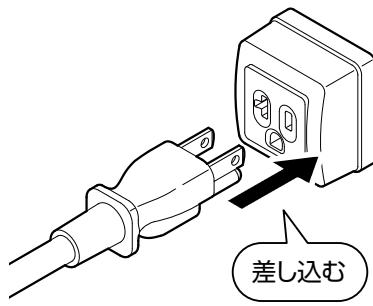


温水器の満水を確認するまでは、絶対に運転スイッチを入れない
過熱し故障の原因になります。

①電源プラグをコンセントに差し込む。



電源プラグをコンセントにしっかり差し込む
感電、ショート、発火の原因になります。



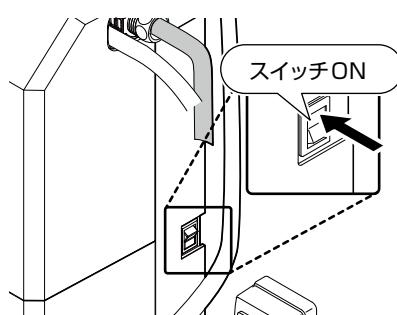
【100Vタイプの場合】

②温水器右側にある運転スイッチをONしてください。

(沸かし上げにかかる時間の目安はP.8『沸かし上げ時間の目安』を参照)

●一度に使える湯量の目安(タンク全量が沸き上がった状態で給湯温度が約 37℃の場合)

給水温度	5℃(冬季)	15℃	25℃(夏季)
一度に使える湯量の目安	約 6.5L	約 8L	約 12.5L



タイマー運転について (ESW03TTX (E) のみ)

ESW03TTX(E)は、組み込まれたデジタルタイマーに汎用的な運転設定「おすすめプログラム」が工場出荷時にインプットされています。運転開始時は、この「おすすめプログラム」で設定されたスケジュールに沿って運転を開始します。(機能と操作方法については、付属の「デジタルタイマー取扱説明書」をご参照ください。)

おすすめプログラム運転設定

運転曜日	月～金曜日
運転時間	6:30～18:30

*タイマーを操作する際は、正面カバーを取り外してください。(取り外し方法はP.10「正面カバーの取り外し」をご参照ください。)

出湯温度の変更

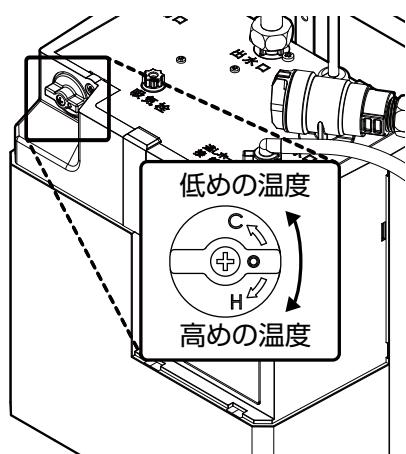
出湯温度を変更したい場合は以下の操作をしてください。

- ①正面カバーを取り外してください。(取り外し方法はP.10「正面カバーの取り外し」をご参照ください。)
- ②出湯温度は、本体前面にある湯かげんダイヤルを操作することで一定の範囲内の調節が可能です。

出湯温度調節範囲

給水温度の目安	温度調節可能範囲目安
約 5°C	約 33 ~ 42°C
約 15°C	約 34 ~ 43°C
約 25°C	約 35 ~ 41°C

*沸かし上げ温度：75°C 時(沸かし上げ直後)、
出湯流量：3L/minの場合。
*出湯温度の調節範囲は給水温度により変動します。



出湯する



注意 湯を出すときは、必ず先に水を出してから湯側に開き、温度を調節してください
やけどの原因となります。
沸かし上げ中の給湯や沸き上がり後の最初の給湯時は、空気の混ざったお湯が飛び散ることがあります。

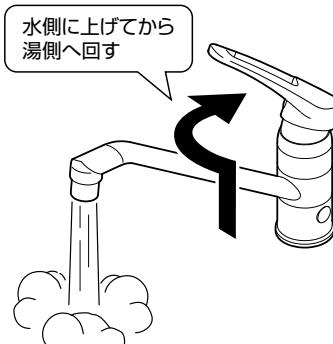


- 一度に使えるお湯には限りがあります。お湯を出しつづけないで、湯水混合栓をこまめに止めるなど、上手にお湯をお使いください。
- 本器は減圧弁を搭載しているため、圧力や流量が必要な水栓では、シャワーにならないなど使用感が悪くなる場合があります。また、複数シンクへの同時給湯は流量が低下するためおすすめできません。

湯水混合栓

シングルレバータンク混合栓

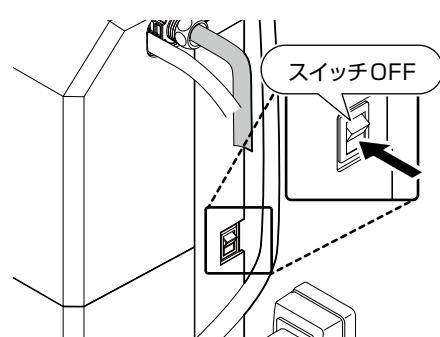
自動水栓



出水する (自動水栓を使用する場合のみ)

夏場などお湯を必要としない場合は、運転スイッチをOFFにしてください。

スイッチをOFFにした直後は、タンク内にお湯が残っているためお湯が出ますが、時間がたつと水になります。



お手入れの方法

保守点検項目と実施の目安

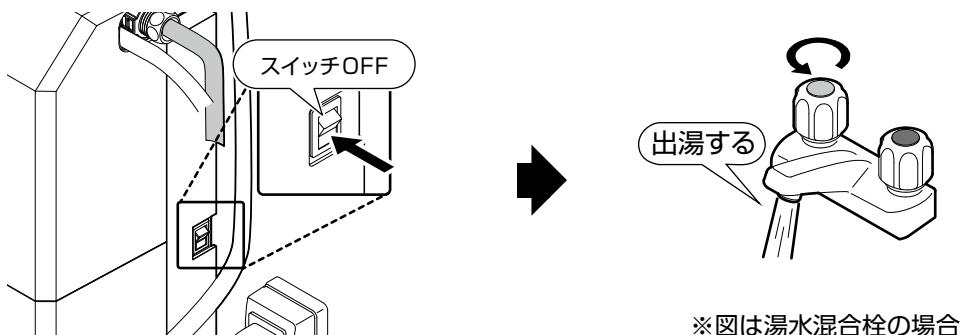
点検項目	点検内容	点検の目安
重要 逃し弁の動作確認	逃しホースから常時水が出ていないか確認してください。(P.25『逃し弁の動作確認』参照)	
コードおよび プラグの点検	コードが熱を持っていること、損傷および劣化していないこと、プラグの締め付け部にゆるみなどの異常がないことを確認してください。トラッキング現象による火災防止のために一次側ブレーカーをOFFにし、コンセント周囲やプラグを乾いた布等で清掃してください。	1回／月
漏水全般についての点検	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	1回／日
タンク内部の清掃	給湯栓を全開にして、タンク内の水を強制的に入れ替えてください。	1回／年

(注)長期間ご使用にならない場合は水質変化防止のため、P.22『長期間使用しないときは』をご参照の上、タンク内の湯を排水してください。

長期間使用しないときは

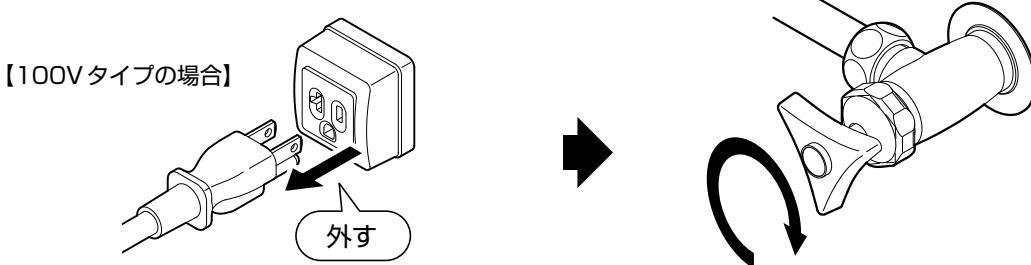
長期間、温水器をご使用にならない場合には水質劣化を防ぐため、下記の手順に沿ってタンク内のお湯を抜いてください。

- ①運転スイッチをOFFにして、タンク内が完全に水になるまで出し切る。



※図は湯水混合栓の場合

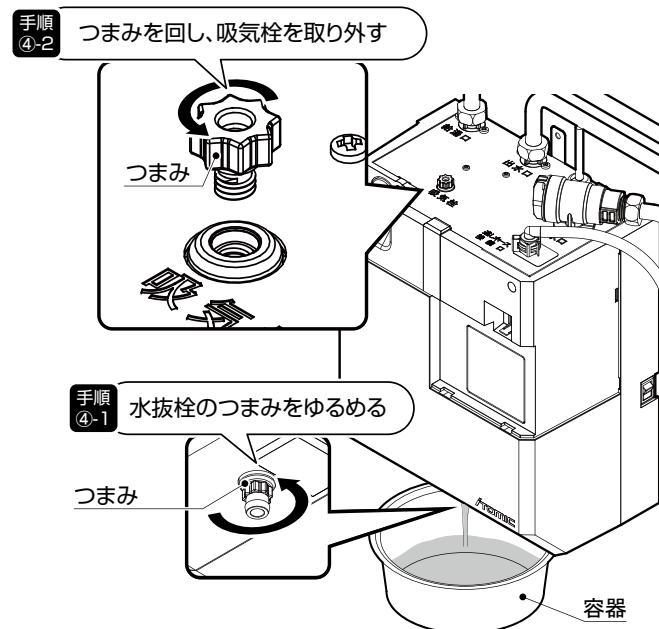
- ②電源プラグをコンセントから外し、止水栓を閉める。



電源プラグは濡れた手で触らない
感電の原因になります。

- ③正面カバーを取り外してください。(取り外し方法はP.10「正面カバーの取り外し」をご参照ください。)

- ④水抜栓の下に容器を置き、水抜栓のつまみをゆるめた後、吸気栓を開き排水する。
 約3Lの水が排出されます。(約3分かかります。)
 ※水抜栓は回し過ぎると外れるのでご注意ください。
 ※ホースで排水する場合は、内径10mmのホースをご利用ください。



必ず湯水混合栓からのお湯が水になるまで使ってから排水する
 タンクにお湯が残ったまま排水すると、やけどをするおそれがあります。
**水抜栓のつまみを回した際や排水時に、つまみ付近から水が出ますので、
 水抜栓の真下に容器を敷いてください**

- ⑤排水が終了したら湯水混合栓、水抜栓、吸気栓を閉め、正面カバーを取り付けてください。(取付方法はP.18「正面カバーの取付」をご参照ください。)
 ※再び使用する場合は、P.17『温水器に給水する』～P.21『出湯する』の手順に従ってください。
 ※湯水混合栓の水抜きは、湯水混合栓の取扱説明書を参照してください。



水抜栓、吸気栓が開いていると、給水時にそこから水が出てくるため確実に閉めてください

短期間使用しないときは

短期間温水器を使用しない場合には、状況に応じてそれぞれ下記の対処を行ってください。

●ご使用を停止する場合

- ・運転スイッチをOFFにしてください。

※タンクが負圧となり破損する原因となるため、止水栓を閉めないでください。

●停電の場合

- ・温水器の操作、止水栓の開閉等、機器や配管に対処する必要はありません。

停電からの復旧をお待ちください。

●断水の場合

- ・止水栓を閉め、断水が終了するまでお待ちください。

※タンクが負圧となり破損する原因となるため、運転をOFFにしないでください。

凍結防止対策

凍結のおそれがある場合は次のどちらかの方法にて機器の凍結予防措置を行ってください。

<機器の運転を継続(運転スイッチをON)しつつ凍結を予防する場合>

機内温度を氷点下にしないために、機器の運転を継続(運転スイッチをON)し沸かし上げを続けてください。また、凍結の可能性がある場所では各配管に対し、ヒーターや保温材を巻く等の凍結予防処置を施してください。

<機器の運転を停止し凍結を予防する場合>

以下の作業は管理技術者の方に依頼し、実施してください。

- ① P.22『長期間使用しないときは』の手順に従い、温水器内の水を抜きます。

※排水が完了した後も水栓、水抜栓、吸気栓は開けたままにしてください。

- ②給水口の給水配管を外す、もしくは給水口手前(一次側配管)の水抜栓を開けてください。

※水抜き後、給水口の給水配管を外した場合は外したままにし、水抜栓を開けた場合は閉めず開放しておいてください。水抜きが完全でない場合には温水器内部に水が残り、凍結により製品が破損してしまう可能性があります。

- ③再使用時には水抜栓、吸気栓を閉めてください。また、外した給水配管や水抜栓も閉めてください。

- ④ P.17『温水器に給水する』～P.21『出湯する』の手順に従ってください。



温水器の満水を確認するまで、絶対に運転スイッチをONにしない

過熱し故障の原因となります。

逃し弁の動作確認

逃し弁が作動しなくなるとタンクの破損や事故の原因となります。定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。

運転停止中の確認

- ①膨張水が流れていなことを確認してください。



設

- ②温水器右側にある運転スイッチをONしてください。

置

- ③正面カバーを取り外してください。(取り外し方法はP.10「正面カバーの取り外し」をご参照ください。)

使いかた

- ④逃し弁レバーを上げてください。

お手入れ

こんなときは

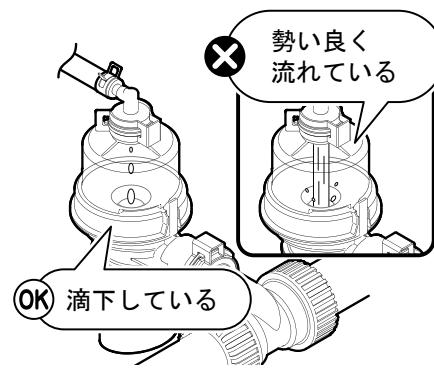


- ⑤逃し弁レバーを上げている間、勢い良く水が流れることを確認してください。

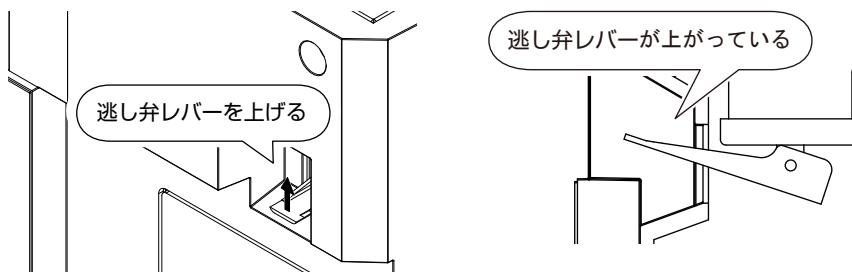


運転中の確認

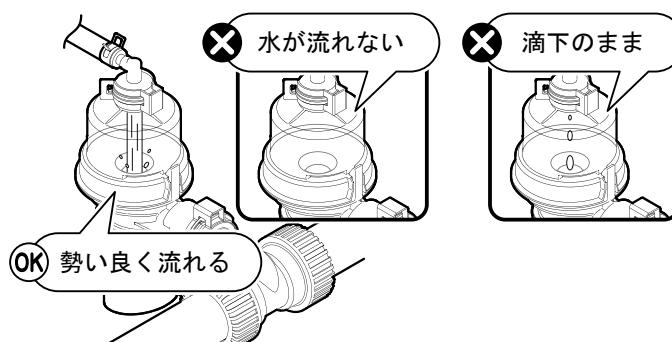
- ①膨張水が滴下していることを確認してください。
- ②正面カバーを取り外してください。(取り外し方法はP.10「正面カバーの取り外し」をご参照ください。)



- ③逃し弁レバーを上げてください。



- ④逃し弁レバーを上げている間、勢い良く水が流れることを確認してください。



逃し弁の内部にゴミが付着すると正常に動作しなくなる場合があります。そのようなときは逃し弁レバーを上げ続け、しばらく水を流した後で再度確認を行ってください。

ストレーナーの清掃

以下の作業は管理技術者の方に依頼し、実施してください。

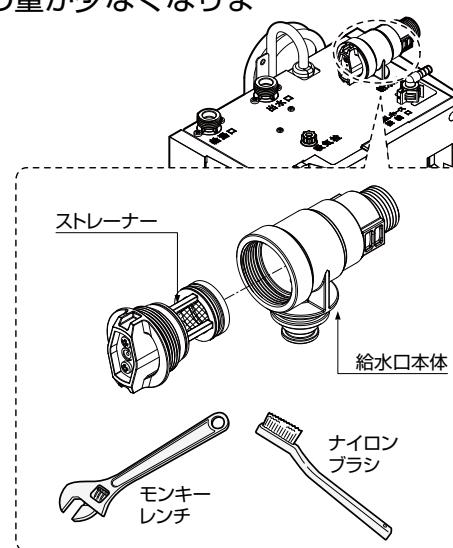
ストレーナーにゴミが詰まるとタンク内への給水量が少なくなり、機器の故障の原因となります。湯水混合栓から出るお湯(水)の量が少なくなりましたら、清掃を行ってください。

清掃前の準備

正面カバーを取り外し、以下のものを準備してください。また右図を参照し、ストレーナーの構成を確認してください。

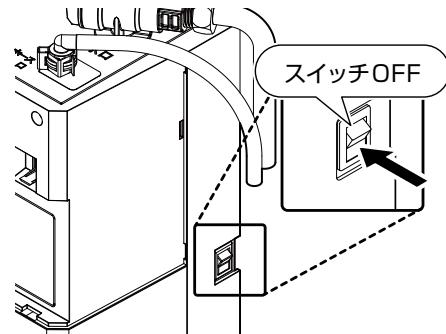
<ご用意いただくもの>

- ・モンキーレンチ
- ・ナイロンブラシ

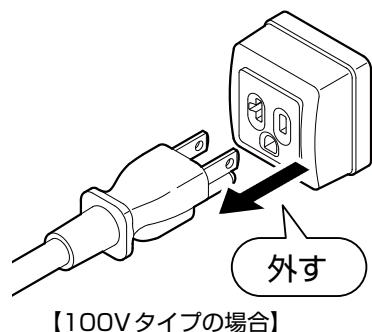


清掃の手順

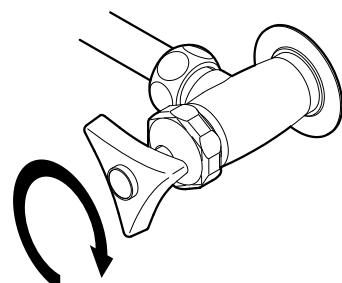
①温水器右側にある運転スイッチをOFFしてください。



②電源プラグをコンセントから外す。



③止水栓をしっかりと閉める。



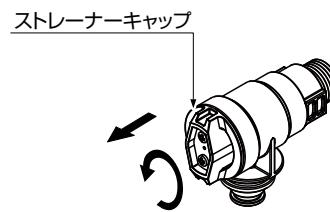
④温水器内部の圧力を逃がすため水栓のお湯側を開にした後、何も出なくなったことを確認して閉める。



*図は湯水混合栓の場合

⑤P.22『長期間使用しないときは』を参照し、排水を行ってください。

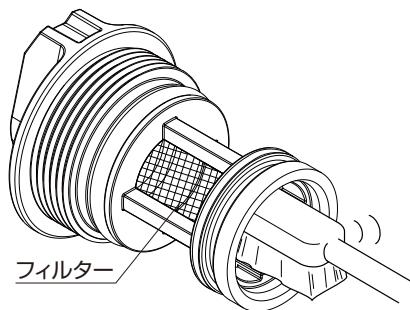
- ⑥手でストレーナーのつまみを回して外してください。手で外せない場合は、モンキーコンチやスパナ等でストレーナーキャップを回して取り外します。



注：製品上部の空間が小さいなど、設置場所によってストレーナーキャップが取り外しにくい場合は、持ち手の短い工具を使用してください。

また、ストレーナーキャップを取り外した際に少量の水が出ますので、水を受けるものを用意してください。

- ⑦フィルター部分に詰まったゴミをナイロンブラシなどで取り除いてください。



- ⑧ストレーナーキャップの取り外しと逆の要領で取り付けた後、給水を行い、漏水がないか確認してください。(給水方法はP.17『温水器に給水する』参照)

※漏水があった場合は再度取り付け直してください。

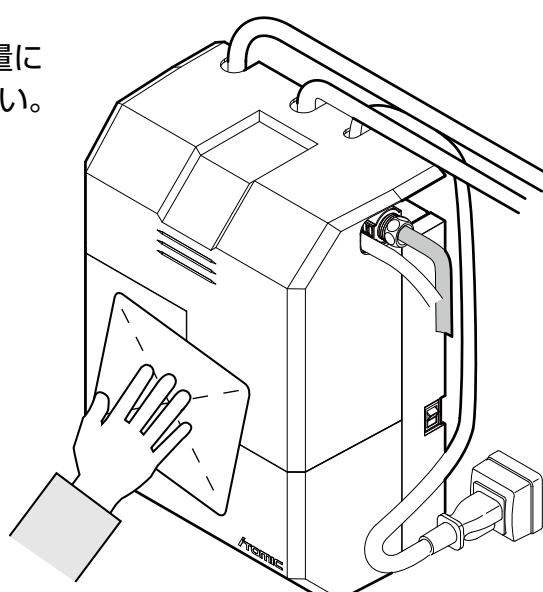


ストレーナーキャップを元に戻すときは、ローリング(ゴム製)がはずれたり、はみ出したりしていないことを確認して、キャップをしっかりと締める

ローリングがはずれたり、はみ出したりしている場合や、キャップの締め付けが不十分な場合、水漏れの原因となります。

外装のお手入れ

水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは適量に薄めた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどは使用しないでください。



こんなときは

故障かな？と思ったら

温水器が正しく運転しない場合や不調な際の修理ご依頼の前にご確認ください。ここに記載されている対処を行っても症状が改善されない場合は、P.35故障状況シートに記載の上、アフターサービス窓口までご連絡ください。タイマーの操作方法は、付属の「デジタルタイマー取扱説明書」をご参照ください。

状況	ご確認ください	対処方法
お湯が沸かない お湯にならない	一次側の漏電ブレーカーがOFFになっていますか？	漏電ブレーカーをONにしてください。
	運転スイッチまたはタイマーの設定がOFFになっていますか？	運転スイッチがOFFの場合はONにしてください。タイマーは設定を変えてみて、通電すればセットし直してください。設定方法は付属の「デジタルタイマー取扱説明書」をご参照ください。
	電源プラグは確実にコンセントに差し込んでありますか？	確実に差し込んである場合でも、結線部が断線していることもありますので、点検してください。
	安全装置が作動していませんか？	本器には「空焚き検出」および「過昇温検出」兼用装置が装備されています。復帰するには温水器の運転を停止し、管理技術者の方にご依頼ください。リセットの手順はP.31『過昇温防止装置のリセット』参照。
	電圧が誤っていませんか？	100Vの温水器を200Vで使用すると、ヒーターが断線します。200Vの温水器を100Vで使用することはできません。
	ヒーターの故障ではありませんか？	管理技術者の方に依頼し、ヒーターの導通を測ってください。故障の場合はP.34アフターサービス窓口までご連絡ください。
湯温が低い または 沸き上がり時間が長い	停電ではありませんか？	復旧までお待ちください。「停電後の対応について」もご確認ください。
	お湯を大量に使用した直後ではありませんか？	沸かし上がるまで時間がかかります。沸き上がるまでお待ちください。 P.8『沸かし上げ時間の目安』参照。
	お湯(水)が逃しホースからプローキャッチャー(BCH)へ出続けていませんか？	沸かし上げ中にポタポタ出るのは正常ですが、常時出ているのは故障です。減圧弁や逃し弁にゴミがかんでいたり、減圧弁や逃し弁の故障の可能性もあります。動作確認の手順はP.25『逃し弁の動作確認』参照。正常に動作していない場合はP.34アフターサービス窓口までご連絡ください。
	水温が低くありませんか？	秋から冬にかけては水温が急激に下がるため、沸き上がり時間が長くなります。P.8『沸き上がり時間の目安』参照。
湯量が少ない お湯も水も出ない	湯かけんダイヤルの設定がC(低い)になっていますか？	P.21『出湯温度の変更』を参照し、希望の温度になるよう設定してください。
	断水ではありませんか？	止水栓を閉め、断水が終わるまでお待ちください。
	給水量が不足していませんか？	止水栓を開いて調整してください。 改善しない場合は管理技術者の方に依頼し、ストレーナーの清掃を実施してください。(P.26『ストレーナーの清掃』を参照。) 清掃を行っても改善しない場合はP.34アフターサービス窓口までご連絡ください。
	止水栓が閉まっていますか？	閉まっていたら開けてください。

状況	ご確認ください	対処方法
非常に熱い湯が出る	温水器の自動混合弁が故障しているませんか？	自動混合弁が故障している可能性がありますので、アフターサービス窓口までご連絡ください。
瞬間的にお湯の温度が高くなるまたは低くなる	その後のお湯の温度は一定になっていますか？	製品の構造上、お湯をしばらく使っていなかった後の出湯は一時的に設定よりも高い温度(約43℃)が出る場合がありますが故障ではありません。
湯水混合栓の水側を開いたときにお湯が出る(水がぬるい)	お湯が出るのは一時的ですか？	沸かし上げ直後や出水を長期間していない場合など、電気温水器の熱が給水配管に伝わり、出水経路の水が温まることがあります。故障ではありません。そのまま流すことにより水になります。
	常時お湯が出ますか？	P.12「配管接続」を確認し、配管施工に間違いがある場合は管理技術者の方へご連絡ください。間違いがない場合はご利用を中止し、P.34アフターサービス窓口までご連絡ください。
お湯が臭い お湯が汚れている	設置直後ではありませんか？	設置直後などは工事の際の切削油等が流入することがありますので、水をしばらく出し続けてください。
	長期間の休止後ではないですか？ または 断水直後ではないですか？	休止後は水の汚れや配管内の錆が出ることがあります。湯水混合栓の水側を開いて水を出してから、湯側を開き、水を出し続けてタンク内の水を入れ替えてください。途中で水の出が悪くなった場合は管理技術者の方に依頼し、ストレーナーの清掃を実施してください。(P.26『ストレーナーの清掃』を参照。)
漏水している	本体からですか？	ただちに使用を中止(運転スイッチをOFF)し、止水栓を閉め、電源プラグを抜いた後、P.34アフターサービス窓口までご連絡ください。
	配管接続部からですか？	施工業者様に連絡し、各配管をしっかりと締め直してください。
温水器本体から音がする	沸かし上げ中ですか？	沸かし上げ中は湯温の上昇に伴って温水器本体から沸かし上げ音がする場合がありますが、故障ではありません。
吐水時に水栓から音がする お湯が白くにごっている	出湯されたお湯に空気を含んでいますか？	沸かし上げの際、水中に溶けている空気や水蒸気が発生し、給湯時に湯に混入することで白くにごる場合があります。また、音がしたり、お湯の出方が乱れる場合がありますが故障ではありません。
給水時、温水器本体や配管が振動音を発する	配管はしっかりと固定されていますか？	給水管に長いフレキ管を使用している場合、しっかりと固定されていないと「ウォーターハンマー現象」が起き、振動音が出ることがありますので、管理技術者の方に連絡し、しっかりと固定してください。

停電後の対応について

停電後は、停電が起こったときの運転状態で復帰します。自動運転中に停電が起きた場合は自動運転で、運転停止中に停電が起きた場合は運転停止状態で復帰します。また、タイマー付機種は停電後には以下のことをご確認ください。

ご確認ください	対処方法
現在年月日、現在時刻の設定は正しいですか？	正しい場合はそのままお使いいただけます。誤っている場合は、デジタルタイマー取扱説明書 P.5『現在時刻の設定』を参照し、再設定してください。

その他の不具合およびエラーメッセージについて

P.34アフターサービス窓口までご連絡ください。

過昇温防止装置のリセット

管理技術者の方



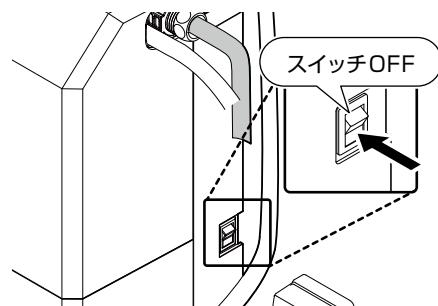
管理技術者の方以外は実行しない

感電、やけど、故障やケガの原因となります。

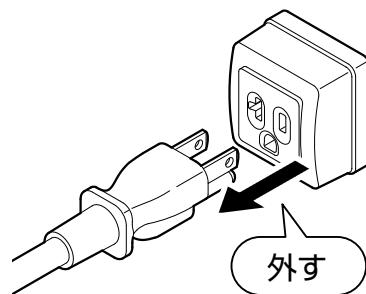
この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

本製品は空焚き運転等の異常高温を検出すると安全装置が作動し、機器の運転を停止します。空焚き運転等何らかの理由で作動し、運転が停止した場合には、下記の手順でリセット操作を行ってください。

①温水器右側にある運転スイッチをOFFしてください。



②電源プラグをコンセントから外す。



電源プラグは濡れた手で触らない

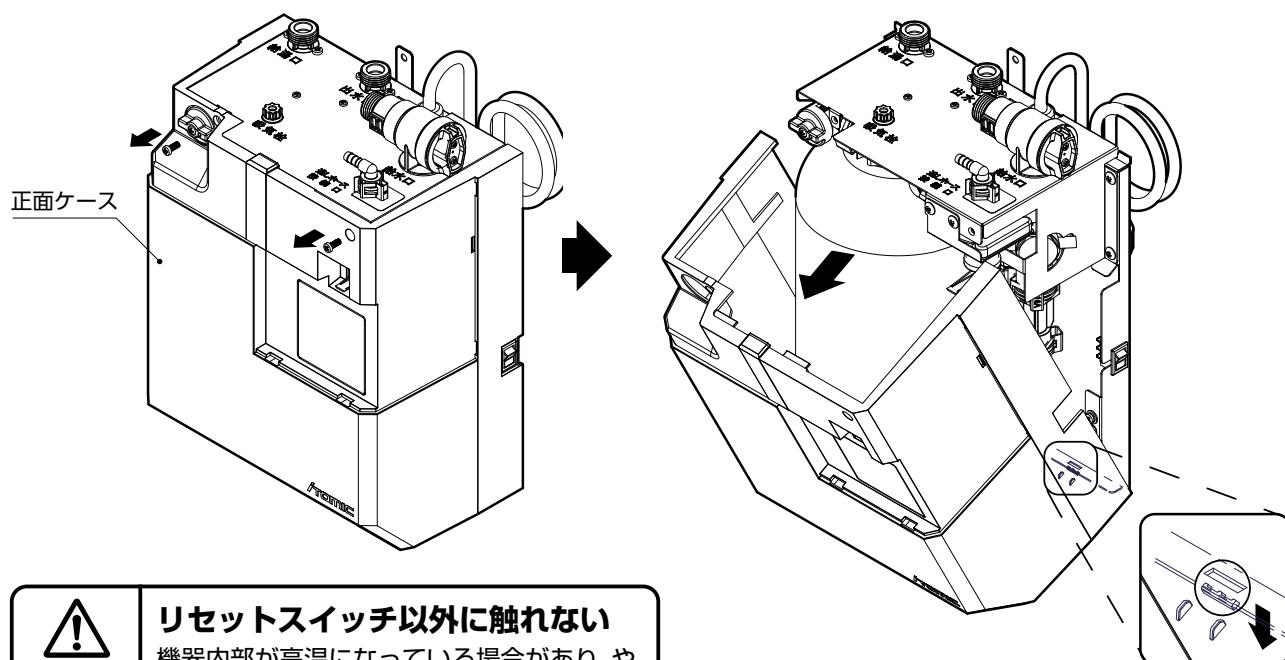
感電の原因になります。

③正面カバーを取り外してください。(取り外し方法はP.10「正面カバーの取り外し」をご参照ください。)

【100Vタイプの場合】

④正面上側 2ヶ所のねじを外し、正面ケースを取り外します。

正面ケース下側にツメが左右 2箇所あるため外す場合は下向き方向に外してください。

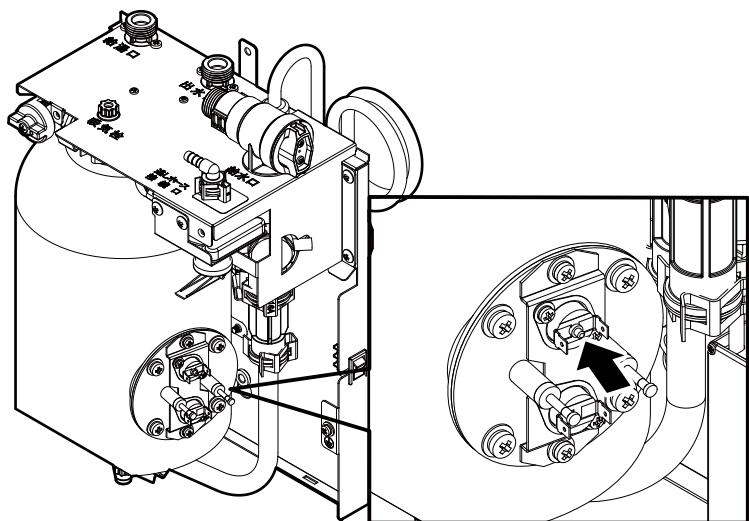


リセットスイッチ以外に触れない

機器内部が高温になっている場合があり、やけどの原因となります。

④下図矢印部分の空焚、過昇温防止装置のリセットスイッチをクリック感があるまで押す。

※クリック感がない場合は、過昇温防止装置は作動していません。



アフターサービス

消耗品について

下表に記載する部品は定期的に交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や漏水を防止するため、定期的に交換してください。

部品交換(有償)はP.34アフターサービス窓口までご連絡ください。

部品名		交換時期の目安	交換いただく理由
弁 パッキン	逃し弁	設置、交換日より 3～5年	長期間ご使用いただくことにより、経年劣化やスケール*による動作不良や漏水を起こす可能性があります。漏水が起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。(※水道水中のミネラル分が固着したもの。)
	減圧弁		
	混合弁		
	給水口 Assy(逆止弁・ストレーナー内臓)		
	ローリング・パッキン類		
電装部品	ヒーター	設置、交換日より 5～7年	
	タイマー		
	過昇温防止装置		
	センサー類		
	ケーブル・コード・配線類		
	その他電装類		

*使用頻度、環境、水質によっては交換が早まる場合があります。

補修用性能部品について

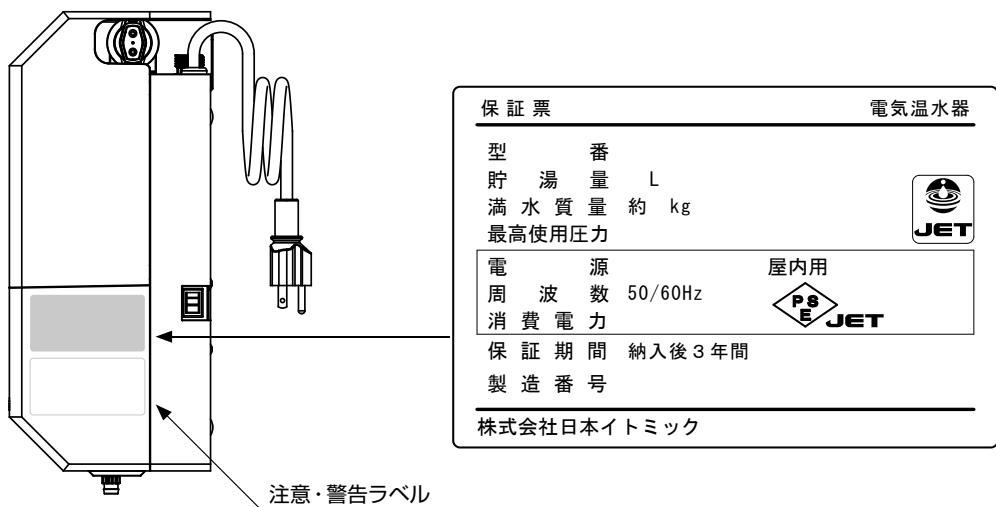
本製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 7 年です。

メンテナンス契約について

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは裏表紙に記載の弊社リニューアル課までご連絡ください。また、部品のご注文はP.34アフターサービス窓口にて承っております。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼の際には、P.35の故障状況シートの必要事項にご記入いただき、お電話またはインターネット、FAXにてご連絡ください。
(型番や製造番号等は本体貼り付けの保証票に印刷されていますので、故障状況シートへ転記してください。)



アフターサービス窓口

TEL

〈全国共通ナビダイヤル〉



一般電話・公衆電話の場合(市内通話料金でご利用可能)

0570-011039

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報を用意ください。

受付時間:24時間 365日(営業時間:8:45~17:45)

一般電話・公衆電話の場合は市内電話料金でご利用可能、携帯電話からも接続可能です。

[ナビダイヤルに関するご注意]

※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直しください。※PHS、IP電話からはご利用になれません。その場合、以下の窓口にお問い合わせください。

関東地区のお客様: 03(3621)2161 関東地区以外のお客様: 裏表紙記載の最寄りの営業所にお問い合わせください。

インターネット 〈インターネット修理受付窓口〉

<https://www.itomic.co.jp/repair/>

インターネットのフォームにて修理のご依頼を受け付け致します。入力内容のご確認および訪問日のご調整のため、お申込み頂いた翌営業日に担当者よりご連絡を差し上げます。

FAX

〈FAX修理受付窓口〉 03 (3621) 2163

FAXで修理のご依頼を受け付け致します。P.35の故障状況シートに記載の上、最寄りの営業所へお送りください。(裏表紙に記載)

故障状況シート

お客様名		
ご住所		
TEL		FAX
製品型番	ESW03	
設置場所		製造番号
お取付日 (保証書記載)		

状態

【無料修理規定】

本規定は、保証票に記載された製品につき、納入から3年の間に故障が発生した場合、下記記載内容に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。保証票に記載された製造番号をご提示のうえ、アフターサービス窓口にご依頼ください。

1. 取扱説明書・製品本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、アフターサービス窓口にご依頼の上、修理に際して保証票に記載された製造番号をご提示ください。なお、遠隔地（離島および離島に準ずる遠隔地）への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居の場合は、事前にアフターサービス窓口にご相談ください。
4. 補償範囲は機能部とその付属品のみで、配管類は含みません。
5. 保証期間内でも次の場合は保証の対象とならず、有料修理となります。
 - (1) お客様が取扱説明書・本体貼付ラベル等に記載された手順・注意を守らなかつたことによる不具合や、部品・タンク内の清掃など日常のお手入れを行わなかつたことによる不具合※1
 - (2) Oリング・パッキン類の摩耗・劣化による不具合や、電池の消耗による不具合
 - (3) 工事要領に指示する方法に基づかない施工や工事設計による不具合※2
 - (4) 輸送・搬入・移動の際の落下・転倒・接触等による不具合
 - (5) 専門業者以外による移動・分解・修理・改造などによる不具合
 - (6) 指定規格以外の電気（電圧・周波数など）の使用や電力契約の間違いによる不具合
 - (7) 温泉水・井戸水など水道水以外の水を給水したことによる不具合
 - (8) 設備側の排水不良等による冠水により生じた不具合
 - (9) 電気・給水の供給トラブル等による不具合
 - (10) 配管の錆・砂・ゴミ等異物の流入による不具合
 - (11) 建築躯体の変化などに起因する不具合や、塗装の色あせなどの経年変化またはご使用に伴う摩耗等による外観上の不具合
 - (12) 火災、爆発等の事故、地震・津波・噴火・風水害・雷などの天災や地変、煤煙、降灰、酸性雨、凍結、海岸付近や温泉地等の地域における腐食性の空気環境、ほこり、異常電圧、異常電磁波、ねずみ・鳥・昆虫などの動物の行為、または戦争・暴動など破壊行為による不具合
 - (13) 保証票の提示が無い場合
6. 無料修理により交換された部品や製品は（株）日本イトミックの所有となります。
7. 製品の保証は日本国内におけるご使用の場合のみ有効です。

※1：日常のお手入れとはお客様ご自身で行えるものほかに、設備業者や管理技術者に依頼が必要なものがございます。製品や部品によってお手入れ方法や時期が大きく異なりますので、取扱説明書やラベル等を必ずご確認いただくとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

※2：製品によって施工方法や注意事項が大きく異なりますので、施工時には工事要領を必ずご確認いただくとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

■お客様へ

1. 製品をお受け取りになる際は、製造番号が記載されている保証票が貼り付けられていることを確認してください。
2. 保証票の再発行はいたしません。
3. 機器が正しく運転しない場合や不調な場合は、修理ご依頼の前に「こんなときは」の項をご覧ください。
4. 無料修理期間経過後の故障・修理等につきましては、「アフターサービス」の項をご覧いただかず、アフターサービス窓口までお問い合わせください。
5. 保証票によって、保証票を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

株式会社 日本イトミック

本社・営業本部 TEL : 03 (3621) 2121 (代)
FAX : 03 (3621) 2130

〒131-0045 東京都墨田区押上1-1-2 (東京スカイツリーイーストタワー 24F)

ホームページ <https://www.itomic.co.jp/>

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

一般電話・公衆電話の場合(市内通話料金でご利用可能です)

 **0570-011039**

[ナビダイヤルに関するご注意]

*ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。

*電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れられた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直しください。

*PHS、IP電話からはご利用になれません。その場合には関東地区のお客様は以下の窓口、その他の地域のお客様は最寄りの営業所まで直接お電話ください。

関東地区お問い合わせ TEL : 03 (3621) 2161
FAX : 03 (3621) 2163

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためには保守契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。

また、部品のご注文はアフターサービス窓口で承っています。

リニューアル課 TEL : 03 (3621) 2760
FAX : 03 (3621) 2160

《担当エリアと営業所》

北海道地区 TEL : 011 (615) 6681
北海道営業所 FAX : 011 (615) 7004
〒 063-0801 北海道札幌市西区二十四軒1条5-1-10 (ラボール24軒2号館)
担当エリア：北海道地区全域

東北地区 TEL : 022 (357) 0848
東北営業所 FAX : 022 (357) 0847
〒 983-0014 宮城県仙台市宮城野区高砂2-8-21
担当エリア：青森県／岩手県／秋田県／山形県／宮城県／福島県

関東・新潟・山梨・静岡地区 TEL : 03 (3621) 2121
(株)日本イトミック 本社 FAX : 03 (3621) 2130
〒 131-0045 東京都墨田区押上1-1-2 (東京スカイツリーイーストタワー 24F)
担当エリア：東京都／千葉県／埼玉県／茨城県／栃木県／群馬県／神奈川県／山梨県／新潟県／静岡県

中部・北陸地区 TEL : 052 (222) 2561
中部営業所 FAX : 052 (222) 2559
〒 460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内1-4-12 (アレックスビル3F)
担当エリア：富山県／石川県／福井県／岐阜県／愛知県／三重県／長野県

近畿地区 TEL : 06 (7177) 4949
関西営業所 FAX : 06 (7177) 4948
〒 541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町3-11 VORT 御堂筋本町II 7F
担当エリア：大阪府／京都府／滋賀県／和歌山县／奈良県／兵庫県

中国・四国地区 TEL : 082 (240) 1361
中国営業所 FAX : 082 (240) 1363
〒 730-0051 広島県広島市中区大手町2-3-9 (大手町中村ビル2F)
担当エリア：鳥取県／島根県／岡山県／広島県／山口県／香川県／徳島県／愛媛県／高知県

九州・沖縄地区 TEL : 092 (481) 3911
九州営業所 FAX : 092 (481) 3930
〒 812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-28-5
担当エリア：福岡県／佐賀県／長崎県／大分県／熊本県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。